

花束を君に！

もうすぐ卒業ですね。家族やたくさんの人たちとの絆、今まで積み上げてきたもの、育ててきたものを背負って、これから新たな道を切り拓いていく君たち。上り坂、下り坂あろうけれど道は続いていきます。気が置けない友人に話すもよし、先輩に相談するもよし、君に合う本にも出会ってほしいな。

宇多田ヒカルが亡き母に感謝の気持ちを表した歌、「花束を君に」の一部を贈らせていただきます。



花束を君に贈ろう 愛しい人 愛しい人
どんな言葉並べても 君を讃えるには足りないから
今日は贈ろう 涙色の花束を君に 宇多田ヒカル作詞より



2019. 12. 22 ビブリオバトル三重県大会（予選）に参加して

染井 久代先生

「人を通して本を知る、本を通して人を知る」といわれる通り、今年も本をツールに自分の思いを披露するビブリオバトル県大会は熱い戦いになりました。鈴鹿中学校では文化祭で、鈴鹿高校では2年生がクラスでバトルを行い、その代表者で校内大会を行ってきました。本の魅力を考え練習を重ね、発表をみんなが聞いて質問してくれるのは嬉しいし、本を通じて交流出来るのは楽しい、とても貴重な経験になったと思います。参加すると「友達がそんな本を読んでいたのか」「その本面白そう」などのいろんな発見があるのもまた面白いですね。



県大会の会場は、ピリピリとした緊張感が漂っていました。でもそこで圧倒されては負けだと思い、指導していただいた園田先生からの助言「女優になる」を意識して緊張をおさえました。

結果的には最優秀賞には手が届きませんでしたが、それ以上に良い経験が出来たので個人的にはとても満足しています。皆さんにもぜひビブリオバトルを通して多くの本の魅力を知ってほしいと思います。

『ホームレス中学生』田村 裕 / 3年制 2年 水谷 さん



Hello! 曾根麻瑚です。よく知りませんがビブリオについて話すことになりました。ビブリオは本についての発表ですが、感想文とは全く異なり濃いコミュニケーションが取れなければ無意味です。コミュ力がないと無理？まさか。好きなものについて話すだけ。意外と楽しいものです。

最後に、背中を押し諦めかけた私の手にもう一度本を握らせてくれた鹿島先生、支えてくれた平賀先生、先輩方、練習に付き合ってくれた大将に百万回のありがとう。

『ママの狙撃戦』萩原 浩 / 6年制 5年 曾根 さん

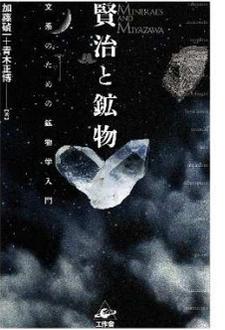
新着図書ピックアップ

『賢治と鉱物』

加藤 碩一【著】

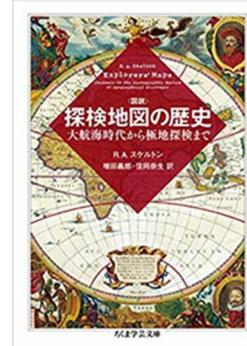
宮沢賢治は子どもの頃から石集めが好きで、鉱物に興味を持っていたそう。そんな賢治の作品にはモチーフとしての鉱物が度々登場します。たとえば『銀河鉄道の夜』には金剛石や黒曜石、ルビーなど★

この本では鉱物を色ごとに紹介し、賢治作品の中から鉱物が出てくる部分を抜粋して載せています。写真も綺麗だし、宮沢賢治作品を読みたくなるよ（大迫）



『探検地図の歴史』

RA スケルトン【著】



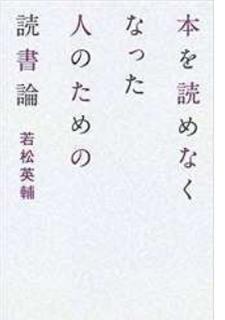
地図って眺めるの面白くないですか？世界地図だとこの国の横にこの国があるのか〜とか、この国って意外と日本より小さい！って再発見することも。

この本の著者は、イギリスの地理学史研究者で大英博物館地図室長や大英図書館での勤務経験もある人物。貴重な歴史的地図約220点に沿って地理的発見の歴史を語ります。世界はいかに「発見」されたか、深いです…！（大迫）

『本を読めなくなった人のための読書論』

若松 英輔【著】

“本を読めなくなった”とは、情報はスマホで済ましてしまうし、…なんて理由が浮かびます。本を買ったものの読まずに積んでおく（積読）。そういった事を著者はマイナスにとらえません。著者の文章が入試問題に使われていて自分で解いても正解にならないって…(笑い話) ここでの読書は知識とか、人から強制されるものでなくて、自由で自分の歩調に合った読書を指します。章ごとの終わりにポイントが書かれていて整理しやすいよ。(黒川)



『食るとはということか—世界の見方が変わる三つの質問』

藤原 辰史【著】



著者は大学の講義で「今まで食べた中で一番おいしかったものは何でしたか？」という質問をします。君なら何？私は亡き母によく作ってもらったちらし寿司だったなあ。“食べる”という行為には物語がついています。“食べる”とはどこまでを指すのか？腸まで？トイレに落ちる寸前まで？その後は？ナント食べ物は人間の中を通過しているに過ぎないのだと。“食べる”って奥が深く、哲学「人間とは何か」につながるのです。(黒川)

新着ピックアップは毎月、司書が「これはぜひ読んで！」と思う本を選びすぐってお届けします。上記以外にも新着図書がたくさん届いています。カウンター前の新着コーナーをご覧ください。

趣味は読書と言いたい・藤崎一臣の本、読んでいこう！ vol.28

『死にがいを求めて生きているの』(2019)

朝井リョウ【著】



先月になりますが、「2020年本屋大賞」ノミネート作品10作が発表されましたね！ノミネート作品の詳細は本屋大賞HP（EMCのHPでもお知らせしています）で確認することができます♪EMCにもノミネート作品の多くが配架されていますよ！

さて、冒頭に本屋大賞ネタを放り込んだことで、ノミネート作品の紹介なんじゃねーの？？と思われた方もいるかと思いますが、残念ながら、今回紹介する本は「2020年本屋大賞」ノミネート作品ではないんです…。本当は、ノミネート作品を紹介したくて、発表前に当作家が有力候補とネットに書かれていたので、読んでいましたが…。残念ながら選出ならずでした。次号では、ノミネート作品を紹介したいと思います。

私もこれまで、『何者』『桐島、部活やめるってよ』の朝井リョウ著2冊をEMC NEWS LETTERで紹介したことがあります。学生時代を舞台に描く著書が多くてすごい好きな作家さんです。sns全盛時代の現代人の心情や醜い部分などを見事なまでに表現しているので、この人、私も年下ですが、人生5回ぐらいやってんじゃねーの？って思っちゃいます。

今回も舞台は、学生時代(小中高大をギュギュッと凝縮)。性格は正反対ですが、なぜか“親友”の男子2人を中心に物語が展開されていきます。そもそもタイトルが「生きがい」ではなく「死にがい」ってことに、どういう意味が込められているのか気になりませんか？オカルト混じりで…最終的にはハッピーエンド？バッドエンド？って感じで終わりますが、現代を生きるみなさんもきっと、この2人のどちらかに共感できるかもしれません。あなたは「山族」それとも「海族」？てか、ちょっとまって！藤崎！！そもそもお前、2月号にカーネギーの『人を動かす』の紹介するって言ってたじゃねーかよ！と思った方…。……。すっすいませんorz



第26回 村上翔太先生おすすめ

『Who Moved My Cheese? チーズはどこへ消えた?』

「1時間で読んで10年間役に立つ」という帯の言葉に興味をわいて、手に取ったのがこの本に出会ったきっかけです。この本は、ある迷路で起こった出来事をめぐる物語で、登場人物はチーズを探し求める2匹のネズミと2人の小人です。物語は、この2匹と2人が迷路の中で、チーズを求めて右往左往するだけのシンプルなものですが、このチーズを「人生における大切なもの」と連想させてこの物語を読み進めると、また新たな発見があり、人生において大切なことを教えてくれる1冊です。

※お薦め本はリレー連載です。次のバトンはどなたに渡るかな？

2・3月の開館予定

2月		3月	
1 土	休館	1 日	休館
2 日	休館	2 月	8:10-18:50
3 月	8:10-18:50	3 火	8:10-18:50
4 火	8:10-18:50	4 水	8:10-18:50
5 水	8:10-18:50	5 木	8:10-18:50
6 木	8:10-18:50	6 金	8:10-18:50
7 金	8:10-18:50	7 土	休館
8 土	休館	8 日	休館
9 日	休館	9 月	8:10-18:50
10 月	8:10-18:50	10 火	8:10-17:50
11 火	休館	11 水	8:10-17:50
12 水	8:10-18:50	12 木	8:10-17:50
13 木	8:10-18:50	13 金	8:10-17:50
14 金	8:10-18:50	14 土	休館
15 土	休館	15 日	休館
16 日	休館	16 月	8:10-17:50
17 月	8:10-18:50	17 火	8:10-17:50
18 火	8:10-18:50	18 水	8:10-17:50
19 水	8:10-18:50	19 木	8:10-17:50
20 木	8:10-18:50	20 金	休館
21 金	8:10-18:50	21 土	休館
22 土	休館	22 日	休館
23 日	休館	23 月	8:10-16:50
24 月	休館	24 火	8:10-16:50
25 火	8:10-18:50	25 水	8:10-16:50
26 水	8:10-18:50	26 木	8:10-16:50
27 木	8:10-18:50	27 金	8:10-16:50
28 金	休館/館内整理	28 土	休館
29 土	休館	29 日	休館
		30 月	8:10-16:50
		31 火	休館/館内整理

今月の本棚



Books
ourshelves

2月の特集は

The 卒業！！

卒業生を送る棚

メ
テ
ライ



もうすぐ卒業するみなさんへ、高校生活の締めくくりに、あの先生から、まさかの一冊が！？ たくさんの先生からの本とメッセージを集めた卒業生必見の特集コーナー（EMC2F）です。この先一冊の本が人生を変えるかもしれません。大切な一冊が見つかるといいですね。

『俺か、俺以外か。ローランドという生き方』 ROLAND (安田 拓真先生)

私は様々な分野の第一線で活躍されている方々の自己啓発の類の本をよく読みます。教師として自分の経験から生徒たちに語れることは多くないので、本を読むことで知識や、考え方、心の在り方など自分に取り入れて、指導の糧にしています。

様々な自己啓発本の中で、この本を紹介する1番の理由は、ユーモアに富み読みやすい一冊ということです。ふざけた本と思う人もいますが、この本には仕事に対してのプロ意識やサービス精神、人生の哲学など学ぶことも多くあります。特にこれから進学や就職など、新しい環境で過ごす中で「心の余裕」を持つことは本当に大切だと思います。『心の余裕をよく海に例えるんだけど、海に赤い絵の具をちょっと流すとするじゃん。色変わらないじゃん、全く。でもコップに入れたらどうなる？真っ赤になるじゃん。怒りもそれと一緒に余裕っていうのは水の量なんだよね。自分が満ち足りたら、コップの水から、プールの水になって…。だから車で煽られたりすると、なんかあの嫌なことがあったのかなって…』

皆さんもこれから様々な職業に就き、様々な人との出会いがあるので、自分の固定観念だけで過ごさず、本を読み教養をつけて人生を豊かなものにしてほしいと思います。

29期生の皆さん

(井上 智貴先生)

ご卒業おめでとうございます。中学2年生から「読むこと」を通して皆さんと関わってきました。その中でも個人的に印象に残っているものをいくつか挙げてみたいと思います。

①「モアイは語る」(中2・1学期)

突然の「四コマ漫画を描け」という指示に、戸惑った人も居たかもしれません。「段落構成を的確に読み解ければ、漫画の構成が自ずと定まる」という意図のものでした。衝撃的なモアイ像が描かれた皆さんの作品は一生忘れません。今でもデータで保存してあります。

②「愛されすぎた白鳥」(高1・1学期)

結末部分をカットした本文を基に、「最後の結末を予測してみよう」というお題でした。「愛が重すぎると結果的に相手を苦しめる」というタメになる(?)教訓が示されていました。胸に刻んで卒業していつてもらいたいと思います。僕も刻んでおきます。

このように、文章を読んで考えるということに6年間取り組んできました。その一つ一つが財産！

図書館からのお知らせ



卒業予定者の最終返却日は**2月17日**になります。以後の貸出はできませんので、ご了承ください。(ただし、図書館は3月31日まで利用することができます。)

編集後記

2月のEMCはバレンタイン応援特集もやってマス。かんたんチョコレシ
ピからモチ度アップまで、お薦め本が勢揃い！！(黒川)

受験生
ガンバ！

